

< 高付加価値型農業の実践を行っている事例 >

獣害対策を中心とした取組み

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	岐阜県高山市丹生川町 <small>たかやましにゆうがわちよう</small> 板殿 <small>いたんど</small>			
協定面積 17.6ha	田 (92%) 水稻	畑 (8%) 野菜	草地	採草放牧地
交付金額 335万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)			
		役員報酬等		4%
		農地管理費		3%
		鳥獣害防止対策費		39%
		多面的機能増進活動費		4%
協定参加者	農業者 17人			

2. 取組に至る経緯

本集落は、高山市北部の標高 800 ~ 900 m に位置し、周囲を山林に囲まれた典型的な中山間地域である。水稻とハウレンソウが農業経営の主体の地域であるが、農地と山林が近接しているためイノシシ等による農作物被害が増加傾向にあった。また、農地の荒廃が進むとともに担い手の高齢化の進行等もあって農家の生産意欲は減退し、耕作放棄地も増加傾向となっていた。このような状況の中、個々の農家での対応には限界があることから、集落協定を締結し、集落全体で鳥獣害対策や耕作放棄地の解消等農地保全活動に取り組むこととなった。

3. 取組の内容

本集落では、農作物をイノシシ等の獣害から守る体制の強化を図るため、交付金の共同活動分から獣害対策費として積立て、国の他の補助事業とあわせて集落全体を囲むように獣害防止フェンスを設置した。また、獣害対策とあわせて担い手による遊休農地の活用や飛騨地域の特産品である「宿儺(すくな)カボチャ」の作付けに取り組むなど、高付加価値農業の実践を図った。さらに、農道、水路の維持管理とともに、地域住民参加による花壇の整備など景観作りや集落の歴史と伝統芸能の保存のための地域活動を積極的に進めている。



獣害防止フェンスの設置



飛騨地域特産の「宿儺カボチャ」

[集落の将来像]

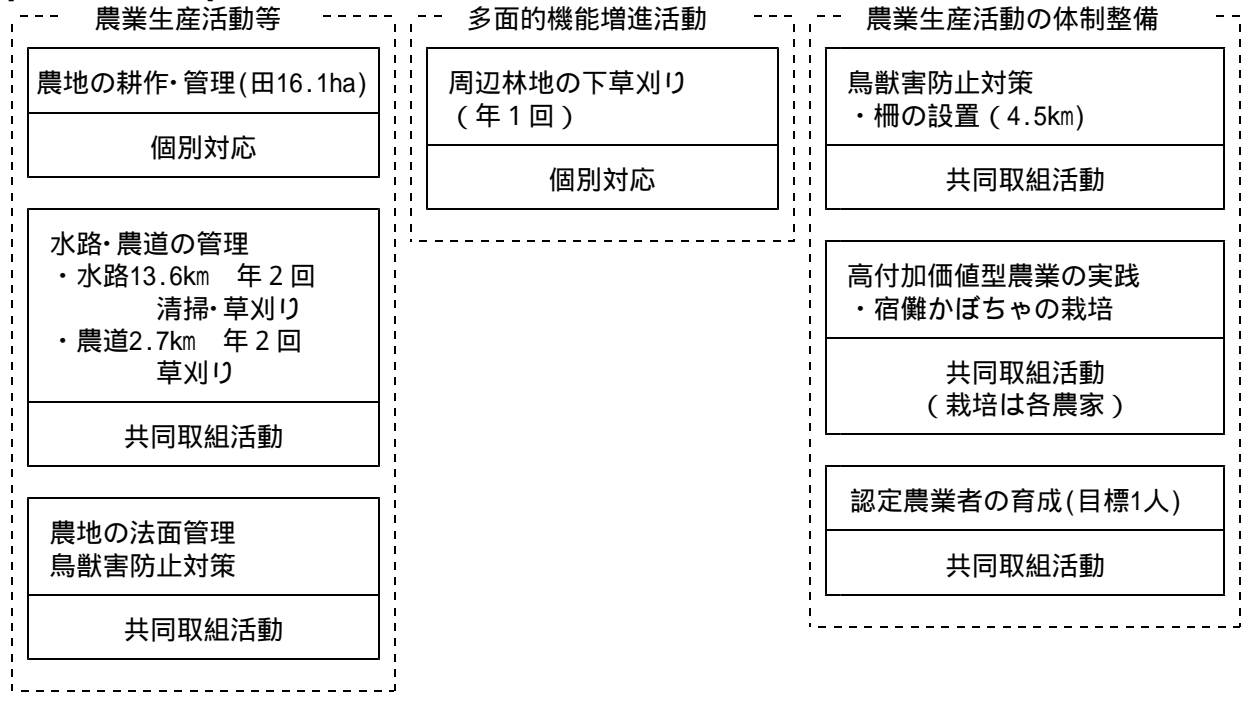
集落内の農家が連携し、農道や水路の維持管理を行いながら、地域住民参加による景観作りを進めるとともに、集落に伝わる歴史と文化を継承するため、伝統芸能の保存活動を積極的に行う。
また、鳥獣害対策、水路改修等の基盤整備及び農業施設の更新を進め、生産意欲の向上と耕作放棄地の抑制を図る。



[将来像を実現するための活動目標]

- ・水路、農道の協定参加者による年2回の維持・管理活動の実施。
- ・鳥獣害防止対策として獣害フェンスを設置。
- ・担い手による遊休農地の利用と作付けの実施。

[活動内容]



4. 取組による変化と今後の課題等

獣害フェンスの設置によりイノシシ等の被害防止が図られるとともに、集落全体での取組により集落内での話し合いも活発になり、農地や農村景観を保全していこうとする意識の高まりや花壇整備など地域活動が活性化した。

今後は、被害防止効果を確保するため獣害フェンスの維持管理や「宿儺カボチャ」等の栽培による遊休農地の一層の活用を進め、さらなる活性化につなげていく。

[平成20年度までの主な成果]

水路、農道等の保全活動の実施 水路 13,600m、農道 2,700m
高付加価値型農業の実践 0.2ha (目標 0.88ha)